

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。時折、真夏の様な暑さかと思いきや、冬のような日があり、毎日寒暖差が激しい今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は、5月6日に東京ドームで行われた、プロボクシングスーパーバンタム級4団体統一王者防衛戦でメキシコのルイス・ネリ選手に6ラウンド、テクニカルノックアウト勝ちをし、見事防衛を果たした井上尚弥選手（大橋ジム所属）に注目しました。東京ドームで世界タイトルマッチが行われたのは、元ヘビー級統一世界王者マイク・タイソンさんがノックアウトで敗れた試合以来、34年ぶりの開催でした。対戦相手のルイス・ネリ選手（メキシコ）は2階級で世界チャンピオンになっており、最強の挑戦者として、今回の試合に臨みました。対する井上尚弥選手は、世界が認める【モンスター

一井上】の異名をとる、日本の誇るスーパーチャンピオンです。試合は、第1ラウンド、ネリ選手が接近戦からの左フックで井上選手の顔面をとらえ、ボクサー人生初のダウンを取り、会場中が騒然としました。しかし、井上選手は第2ラウンドにダウンを奪い返すと、第5ラウンドにもダウンを奪い、続く第6ラウンドにもダウンを奪いネリ選手はもう立ち上がる事が出来ませんでした。終わってみれば、井上尚弥選手の圧倒的な試合展開で勝利しました。試合後のインタビューで、人生初のダウンの事を聞かれると『こんなサプライズも会場の皆さんに楽しんで頂けたかと思います』と余裕のコメントをしていました。まさに【モンスター】らしいコメントではないかと感じました。しかしそのモンスターたる由縁の陰には、血のにじむような努力があったのだと思います。

【努力に勝る天才なし】私の好きな格言の一つです。この言葉を胸に毎日、利用者様に喜んで頂ける様、精進して参る所存でございます。梅雨空が続く今日この頃ですが、皆様くれぐれもご自愛ください。

サンライズの物語

最期の瞬間の、神様の粋な計らい—— 介護職の役割について考える物語



その方は、ご家族を愛しいつも家族の幸せを願っていた方でした。

奥様には「ありがとう。今度生まれ変わったらまた、一緒になろうね」と奥様が恥ずかしくなる事を言葉で伝えていた方でした。

そんな中、胃がんに罹患され、ご家族が自宅で看取ることを決めたのです。

人生最期に起こる不思議な現象は昔から言われていたことですが、その方も担当医から、あと2～3日の危篤状態と診断を受けた事から家族が皆様で看病していると不思議な現象が起こり始めたのです。

1日中傾眠していると大好きな娘と孫が訪問した時に突然パチンと目を開け「疲れたよ。アイスが食べたいよ」と言い出し食べたのです。中治り現象と言う現象です。

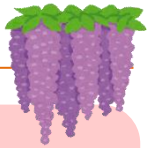
実は、このように容態が一時的に回復する現象は日本だけではなく、欧米では「ラストラリー」と呼んでいるらしいのです。日本語に直すと「最後の回復」。

そして人がターミナルステージの状態に近づくと「お迎え現象」が起こると言われています。

その方も最後に「お母さんが迎えに来たよ」言ったそうです。

何人も看取った名医が言った事を聞いた事がありますが、これは天国への旅立ちを控えた人への神様の粋な計らいかもしれないと思う事があるそうです。

誰もが死とというものを決して避けては通れません。最後の瞬間にご家族に囲まれ幸せな時を過ごすお手伝いをする仕事が私たち介護職だと考えます。



藤の花飾り

皆さんでおはながみで藤の花を製作しました。



カレンダー製作

折り紙でバラの花を作り
画用紙に貼り付けて作りました。



NEWS 今月のニュース

「認知症カフェ」集いの場に 松山の和気・堀江地域 高齢者や家族レク楽しむ

認知症のある人やその家族、高齢者らが気軽に立ち寄って交流できる「認知症カフェ」。松山市太山寺町の喫茶店で14日、認知症カフェ「ますc a f eおれんじ」がスタートした。市地域包括支援センター和気・堀江が運営し、参加者はコーヒーを飲みながら語り合い、介護の専門職らによる認知症予防の話やレクリエーションなどを楽しんだ。

木造平屋の店内に入ると、棚には色や形の違うカップがずらりと並ぶ。喫茶店のオーナー増田佳江さん（56）は元同市職員で、早期退職し昨年店を開いた。「店がオレンジ色の看板で、認知症支援のシンボルカラーと同じ。縁を感じて場所をお貸

しすることにした。ここでコーヒーを飲み気分転換してほしい」と語る。

初日は地元の高齢者ら約30人が参加した。サイホンでいれるコーヒーの匂いが皆を元気にする。「こんにちは、あーうれしい」「皆でわいわい言うのがええね」。保健師らとパタカラ体操などを楽しみ、約1時間半があっという間に終わった。「毎日来たいな。ありがとありがと」

認知症カフェは、当事者やその家族だけでなく地域で誰もが気軽に参加できる「集いの場」として、松山市内でも少しずつ広がっている。市地域包括支援センターの山本智津子センター長は「和気、堀江地域では初の取り組み。今後も相談会や音楽の生演奏など活動を準備したい。高齢者が閉じこもらないことが大事で、

外出のきっかけになれば」と話していた。

ますc a f eおれんじは8月20日、11月12日午前10時～11時半にも営業予定。参加費500円（コーヒー代）。駐車場あり。問い合わせは同センター和気・堀江＝電話089（911）8005。（村上直子）



認知症カフェでレクリエーションを楽しむ参加者＝松山市太山寺町

<新潟日報 24/5/27（月）>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>